

高齢者のやすらぎの家 やまね

だより 33号

発行者 ボランティアグループ なの花

会長 森田 元治

発行所 792-0834 新居浜市中西町 16-20

「やまね」Tel 0897 41-0104

発行日 2011. 7. 25

猛暑日がつづいています

暑中お見舞い申し上げます。

ことしは随分早い梅雨明けでした。この夏は、暑い日が長続きするのでしょうか。厳しいですね。

台風6号は、新居浜では被害がなく通り過ぎていきほっとしました

震災による原発事故と、点検中の原発の再稼働見合わせによって、電力が不足するので節電するよう電力会社と政府はいつています。節電が過ぎ暑さを我慢すると、とくに高齢者は熱中症になります。

節電はほどほどにして、水分を十分取りましよう。

栄養と睡眠にも心がけてください。

7月7日
七夕飾り



原発事故を危惧

東電福島原発が3月11日に大事故を起こし4箇月になりました。地震と津波が直接の原因とはいえ、政府、経産省、東電のあまりにもお粗末な事故処理の対応です。原発不安が増大しています。

原発の安全神話ということばがまかり通っていましたが、それが完全に崩れさりました。

想定外という理由を付けてどうしようもなかったがごとく言い訳をしている東電や保安院。それを追認する政府。国民には分かりにくい原発の専門語を並び立て、テレビでしゃべりまくるオカカエ学者。再稼働をせきたてる財界や産業界。

政官産学の癒着構造が、この原発事故を通して垣間見えました。

正しい情報が迅速に出せない、国民の疑問に的確に答えられない原発体制は、隠し事のベールに包まれています。国と自治体間の情報伝達の不十分さが目立ちます。責任のなすり合いをしています。

その犠牲になっているのが原発の被害者です。被害者の置かれている状況は痛いほど分かります。

原発事故の収束には何十年もかかるといいます。放射能とその影響による被害は、福島周辺だけでなく全国的に広がっています。

将来、子ども達の健康が不安です。

原発は、原爆と同じ原理です。両者は、目的が違うだけです。事故が起これば、原発も原爆も同じ結果を引き起こします。

もはや、脱原発や縮原発は、世論だと言えます。なお、この原稿の執筆者は、長崎での原爆被害者であることを付言しておきます。

活動助成金を いただきました

「やまね」の日頃の活動にご理解をいただき、次の団体から活動助成金をいただきました。

市社協
社協角野支部
ニッセイ財団

誠にありがとうございました。
これからも地道ではありますが、とくに高齢者のいこいの場、やすらぎの場、語らいの場としての「やまね」を目指してボランティア一同努力して参ります。



「第33回 ニッセイ財団 贈呈式 H23. 7. 7 (於 愛媛県庁)」

東日本大震災の 募金活動

他のボランティア団体と共同で3月19日と5月8日の2回イオンで募金活動をしました。

定例会

7月19日「やまね」で定例会を開催する予定でしたが、あいにく台風6号の接近により中止しました。

定例会の議題は、行事の報告、収支の概算それにこれからの予定などで、後日書面で説明し了解を得ました。

アルミ空き缶の回収に感謝

アルミ空き缶やプルタブの提供を多くの方々にいただいていることに心より感謝申し上げます。

これからもよろしくご協力の程お願いいたします。



アルミ缶をたくさん
いただきました

「やまね」は

高齢者が気軽に立ち寄ってお茶でも飲みながらお話や五目並べ、編み物などができる趣味の場、話しの場、語らいの場（家）です。来ていただくと誰か居ます。それぞれが来たいときに来て、帰りたいときに帰る仕組みです。利用料として300円を頂いております。



小学校で原爆体験のはなしをしました